

種ありワイン用デラウェア省力栽培のポイント vol.1

目標とする果実の品質

果房重 特に指定なし
 糖 度 17度以上(あまり低くないもの)
 酸 度 0.6%以上(あまり低くないもの)
 着 色 あまり問わない(真っ青でないもの)
 収 量 1.5トン以下/10a(露地)、1.8t以下/10a(雨除け・ハウス)
 病虫害 ないもの(さび取りを実施)

主な栽培管理

4月	○新梢管理	・芽かき 25～30本/坪を目安に調整。 ・誘引 展葉6～8枚程度から始め、花穂が棚下になるように誘引。
5月	○結果調整	・巻きひげ取り 作業性向上のため、巻きひげをとる ・摘房 1新梢2～3果房になるように摘房。 生食用ほど厳密にする必要はない。
6月		
7月		
8月	○収穫・出荷調製	・収穫 園の全体を見て、右の写真のステージ3と4の間の着色になったら一斉どりを実施。 ・出荷調製 病気やカビが出ている粒を取り除く。
9～12月		
1月	○せん定・施肥	・せん定 生食用と同様に実施。 ・施肥 生食用と同様に実施。
2月		

【生食用栽培との違い】

●必要ない作業

・ジベレリン処理

- ・摘心(新梢が強すぎる場合は適宜実施)
- ・出荷調製作業(ワイナリー専用の出荷箱で搬入)

○省力できる作業(各園の状況等によっては実施が必要)

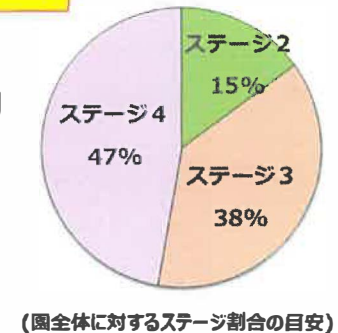
- ・岐肩の切除
- ・笠かけ ※多雨の年や高品質果実を作る場合には実施
- ・防鳥網張り ※生食用(完熟)より鳥害は少ない。被害に応じて実施

収穫時期の目安(着色ステージ3～4の間)

＜収穫時期＞

- ・無核デラウェアに比べ、果実の生育は1～2週間程度遅くなる。
- ・収穫した果実の平均糖度が17度を超えるよう収穫する。

※以下の写真及びグラフの比率を目安に、着色ステージ3、4の間になったら収穫



	1	2	3	4	5
着色ステージ					
収穫時期	7月中旬	7月中～下旬	7月下旬	8月上旬	8月中旬
糖度(度)	8～12	13～16	16～18	20～22	23～26
酸含量(g/100ml)	1.7～2.3	1.3～1.7	0.7～0.9	0.6～0.7	0.6以下

※糖度及び酸含量は、2018羽曳野市露地種あり栽培での参考値です。